

日本

GDP (2021年7-9月期)

供給制約が重しも、先行きはペントアップ需要によって回復へ

政策・経済センター  
田中康就  
03-6858-2717

## 1 実質GDP (季調済前期比、%)

(季調済前期比、%)	2021		
	1-3	4-6	7-9
実質GDP	▲ 1.1	0.4	▲ 0.8
内需	▲ 0.8	0.7	▲ 0.9
民間	▲ 0.5	0.8	▲ 1.4
民間最終消費支出	▲ 1.3	0.9	▲ 1.1
民間住宅投資	1.1	2.0	▲ 2.6
民間企業設備投資	▲ 1.0	2.2	▲ 3.8
民間在庫投資	0.4	▲ 0.3	0.3
公需	▲ 1.6	0.4	0.6
政府最終消費支出	▲ 1.7	1.1	1.1
公的固定資本形成	▲ 1.4	▲ 2.1	▲ 1.5
外需 (純輸出)	▲ 0.2	▲ 0.3	0.1
輸出	2.4	3.2	▲ 2.1
輸入	4.0	5.3	▲ 2.7

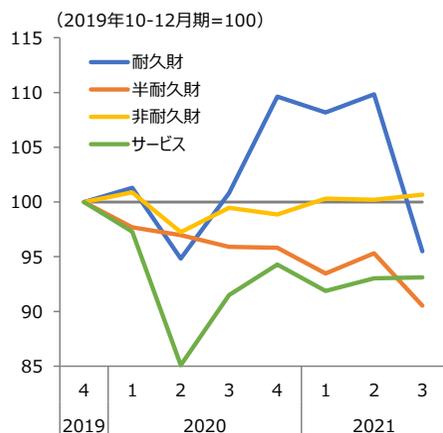
注：民間在庫投資と外需（純輸出）は季調済前期比寄与度（%ポイント）  
出所：内閣府「国民経済計算」

## 2 実質GDP



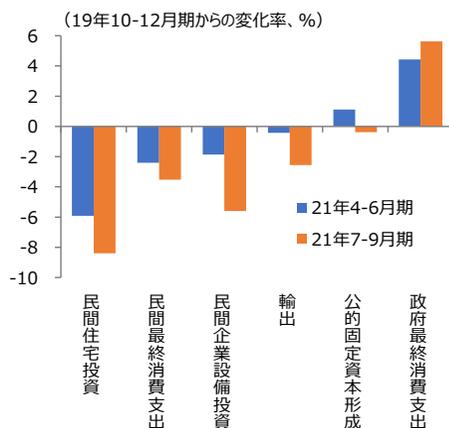
出所：内閣府「国民経済計算」

## 3 国内家計最終消費支出 (内訳)



出所：内閣府「国民経済計算」

## 4 実質GDP (コロナ前との比較)



出所：内閣府「国民経済計算」

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 2021年7-9月期の実質GDP（1次速報値）は、季調済前期比▲0.8%（年率▲3.0%）と、2四半期ぶりに減少した（図表1）。21年以降、コロナ危機前（19年10-12月期）を2%程度下回る水準で推移している（図表2）。
- 民間最終消費支出は、季調済前期比▲1.1%の減少となった。耐久財の落ち込みが消費全体を押し下げた（図表3）。在宅生活の充実を背景とする財需要ははく落した模様だ。サービスも、新型コロナの感染拡大や緊急事態宣言発令（7月12日～9月30日）などにより低調な推移となった。
- 民間企業設備投資は、同▲3.8%と大幅に減少。半導体・部品などの供給制約による生産減少や外出関連業種の業績低迷が設備投資を押し下げた。
- 輸出は同▲2.1%と、供給制約や中国経済の減速を背景に、5四半期ぶりに減少した。輸入も同▲2.7%の減少となり、外需寄与は+0.1%ポイントとなった。

## 基調判断と今後の流れ

- 日本経済は、新型コロナの流行長期化や供給制約が重しとなり、国内民間需要を中心に弱い動きが続いている（図表4）。
- 21年10-12月期以降は、回復基調を予想する。10月以降も新規感染者数は低位で推移しており、外出関連業種を含め、国内経済活動の再開が進んでいる。経済活動の正常化に伴う雇用・所得環境の改善や、コロナ危機下で積み上がった約40兆円の過剰貯蓄が消費に回ることが期待される。
- 11月19日に財政支出55.7兆円規模の経済対策が閣議決定された。18歳以下への給付のうち消費に回るのは3割未満とみるが、GoToトラベルは再開されれば外出関連業種の改善を加速させるだろう。先行きの日本経済は、22年半ばにかけて潜在成長率を上回るペースでの回復を見込む。
- 先行きのリスクは、①冬場にかけての感染急拡大、②半導体・部品不足の長期化、③電力不足や債務問題を抱える中国経済の行方、などが挙げられる。